

令和3年度 生涯学習・社会教育関係職員研修事業パワーアップセミナー【概論編】
実施報告書（HP版）

- ☐ 開催日時 令和3年6月17日（木） 10:00～16:00
- ☐ 会場 遊学館（山形市緑町1丁目2-36） ホール、第1～4研修室
- ☐ 対象 市町村社会教育・生涯学習関係職員（公民館職員・コミュニティセンター職員含む）のうち、経験年数が1年未満の初任者と、2年目以上の職員で過去に受講できなかった者。
- ☐ 講師 皆川 雅仁 氏（秋田県生涯学習センター社会教育主事、秋田大学非常勤講師）
菅原 吉利 氏（山形県教育庁生涯教育・学習振興課 社会教育専門員）
- ☐ 出席者数 申込者61名中58名出席（出席率95.1%）
- ☐ 内 容

	◇受付（9:30～9:55）	◇開講式（10:00～10:05）
10:05～11:35	◆講義①「生涯学習・社会教育とは～生涯学習・社会教育関係職員に求められる役割」（講師：秋田県生涯学習センター社会教育主事 皆川雅仁氏） ＊生涯学習の理念や社会教育の役割、今後の生涯学習・社会教育行政の動向など職務に必要な基本的な知識や考え方を学ぶ。	
11:35～11:40	休憩（講話講師準備）	
11:40～12:05	◆講話「令和3年度 県社会教育・生涯学習行政施策概要と新任職員に期待すること」（講師：山形県教育庁生涯教育・学習振興課 社会教育専門員 菅原吉利氏） ＊山形県の生涯学習・社会教育行政の動向を知るとともに、生涯学習・社会教育関係職員としての役割について考える。	
12:05～13:10	事務連絡・昼食休憩	
13:10～14:40	◆模擬熟議「地域の持続可能性を高めるためには、どんな地域になったら…」（講師：秋田県生涯学習センター社会教育主事 皆川雅仁氏） ＊熟議体験を通して、目標を共有することの意味やその重要性を認識したり、課題解決策を導き出す手法としての熟議の有効性について学んだりすることにより、多様な主体との連携・協働を主導する社会教育関係職員としてのスキルアップを図る。	
14:40～14:50	休憩	
14:50～15:55	◆講義②「生涯学習・社会教育に関する事務事業のつくり方」（講師：秋田県生涯学習センター社会教育主事 皆川雅仁氏） ＊生涯学習・社会教育分野の事務事業立案にあたり、押さえておきたい考え方と有効と思われるプロセス、多様な主体との連携・協働の視点などを知り、実際の予算要求時に有効なノウハウについて学ぶ。	
15:55～16:05	質疑応答・諸連絡・アンケート記入	16:05 終了

- ☐ 主催 公益財団法人山形県生涯学習文化財団 山形県教育委員会

□当日の様子

◆講義①「生涯学習・社会教育とは～生涯学習・社会教育関係職員に求められる役割」

講師の皆川氏より、生涯学習・社会教育関係職員として知っておくべき法令や近年の動向などについて講義いただきました。また、社会教育の課題解決に有効な手法である LRDC マネジメントサイクルや社会教育関係職員の心構え（三原則）などお話いただきました。

※LRDC マネジメントサイクル：Look（意識的に見る）→Reform（改良する）→Do（実施する）→Connect（つながる）→Look…のサイクル



講師の皆川氏



会場の様子

参加者の声

- ・社会教育の目的やねらいがよく理解でき、LRDC マネジメントサイクル、社会教育関係職員3原則とその必要感を無理なく意識できる講義だった。
- ・関係法令等をわかりやすく解説いただき、自分が向かう方向に気付かされた。
- ・生涯学習・社会教育は関係法令に基づいている認識がなかったため、今後きちんと確認したい。LRDC マネジメントサイクルを意識しながら、仕事に活かしていきたい。
- ・今まで深く考えたことのないような事を話していただき、ハッとさせられました。否定しないことの大切さをこれからも頭において人とのつながりを築いていきたい。

◆講話

「令和3年度県社会教育・生涯学習行政施策概要と
新任職員に期待すること」

講師の菅原社会教育専門員より、今年度の山形県の
社会教育・生涯学習行政施策概要についての説明や、
新任職員へのメッセージをいただきました。



参加者の声

- ・山形県の教育や施策についての現状を知ることができ、とても勉強になりました。
- ・講義①と重なる部分もあり、理解を深めることができました。県の取り組みを押さえることができ、社会教育の実践についてイメージを持てたので良かったです。
- ・普段から学習者のニーズは何かを対話などを通し、考えていくことが重要だと感じました。

◆模擬熟議「地域の持続可能性を高めるためには、どんな地域になったら…」

熟議とは…多くの当事者（関係する地域住民等）が集まって地域の課題について学習・熟慮し、討議することによって互いの立場や果たすべき役割への理解を深めること。熟議を重ねることで解決策が洗練され、個々人が納得して自分の役割を果たすようになっていくといわれています。今回は受講生3～4人のグループごとに「一人ひとりが人間力に満ちあふれ、山形らしさが輝く地域になるためには何が必要か」をテーマに模擬熟議を行いました。



模擬熟議の様子①



模擬熟議の様子②



模擬熟議の様子③



模擬熟議の様子④

参加者の声

- ・初めてお話す方達といきなり熟議…不安でしたが、遠慮がいらぬ分、実りある話ができたと。
- ・各自の地元の課題や問題点等も共有できた。皆さんの意見、参考になりました。熟議、大切です。
- ・他市の方々と山形らしさ、人間力について話し合えてよかったです。熟議は自分の意見、相手の意見を伝えあえるのでとてもよかったです。
- ・否定しないことで、意見が多く出たと思います。
- ・初めてサフ・ファシリテーターという役割で熟議を体験できました。体験という形ではありましたが、グループの方々が少しずつ語り始めて、付箋をつなぎ合わせていく中で自分の考えをどんどん話し合っていたのが、「自分事」になっている証拠だと思いました。年齢問わず、話し合えることが良かったと感じました。

◆講義②「生涯学習・社会教育に関する事務事業のつくり方」

最後の講義では熟議やLRDC マネジメントサイクルを活用した事務事業のつくり方について、実例を交えながらお話いただきました。まずは熟議により現状や課題を把握し、やるべきこと（やらないこと）を見極めていくこと、LRDC マネジメントサイクルによりユーザー目線を大切に事業の企画と評価をしていくことの意義を学びました。

参加者の声

- ・皆川先生の実践事例をお聞きし、周りの環境をよく見て、課題を確認しながら事業を進めていく姿勢を心掛けていきたいです。
- ・事業を行う中で年々予算が削減され、厳しい状況が続いている。今日の講義を聞き、既存の事業が本当に必要なものなのか、地域が求めている事業は何なのか、改めてよく考えてみたいと思った。
- ・事例をもとに話を聞くことができた。ユーザー目線・考えが足りなかったんじゃないかと反省した。難しいこともあったが、まず自分ができること、やらなければならないことを考えていかなければと思った。